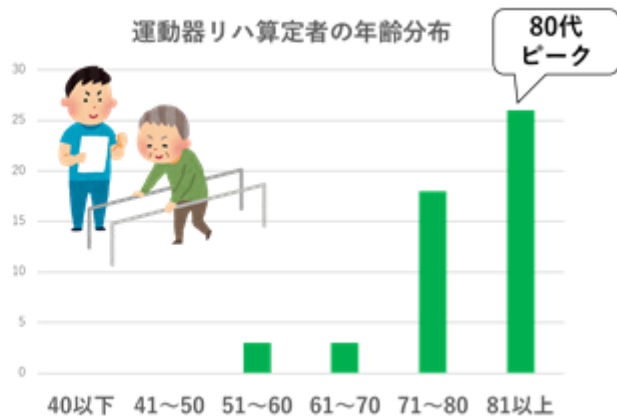
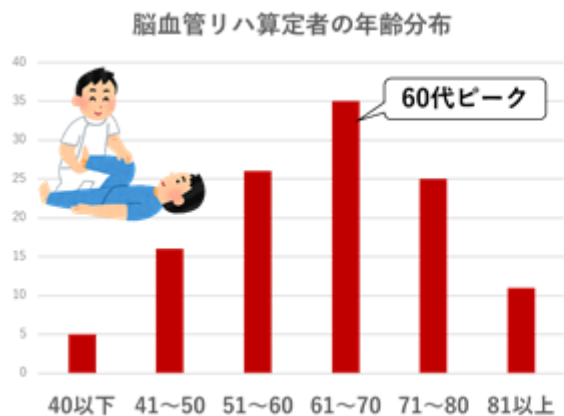


2023年度 回復期病棟治療成績

入院された患者さんについて

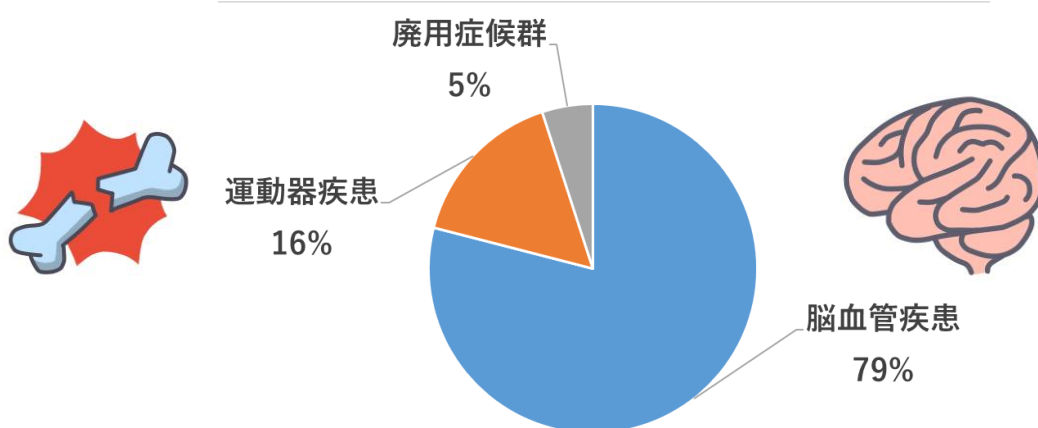
2023年度の回復期病棟退棟患者は全170名（男性90名、女性80名）で、平均年齢は67歳でした。全国データの平均年齢は77.3歳と報告されており、比較的若年の方が多のが当院の特徴です。

下のグラフは入院患者についてリハビリ算定別の年齢分布です。



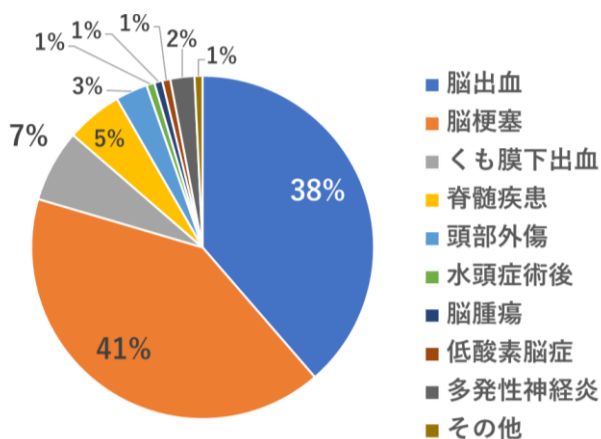
回復期病棟へ入院された患者さんの疾患別割合

リハビリ算定別の内訳は、脳血管系79.4%、運動器系16.5%、廃用症候群4.1%であり、全国平均と比較して当院回復期病棟では脳血管リハビリテーションの割合が高くなっています。



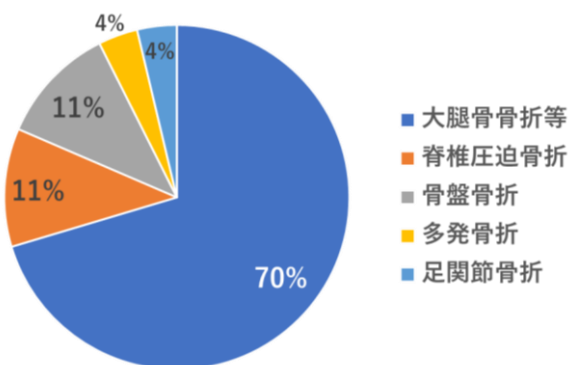
入院された患者さんの疾患名

①脳血管リハビリ算定



脳神経系疾患としては、脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）が全体の84%を占めています

②運動器リハビリ算定

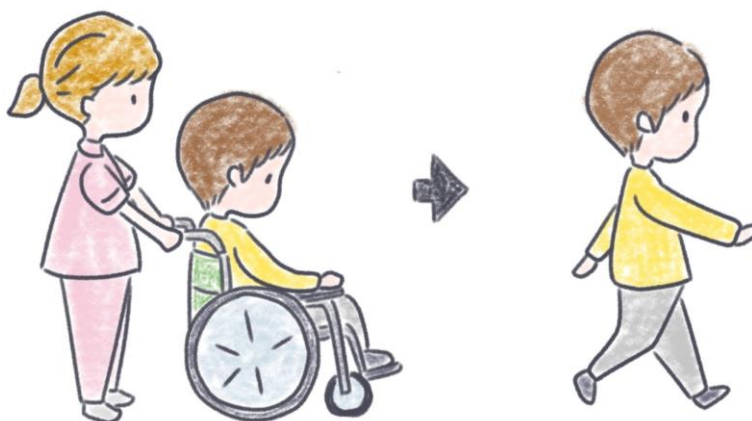
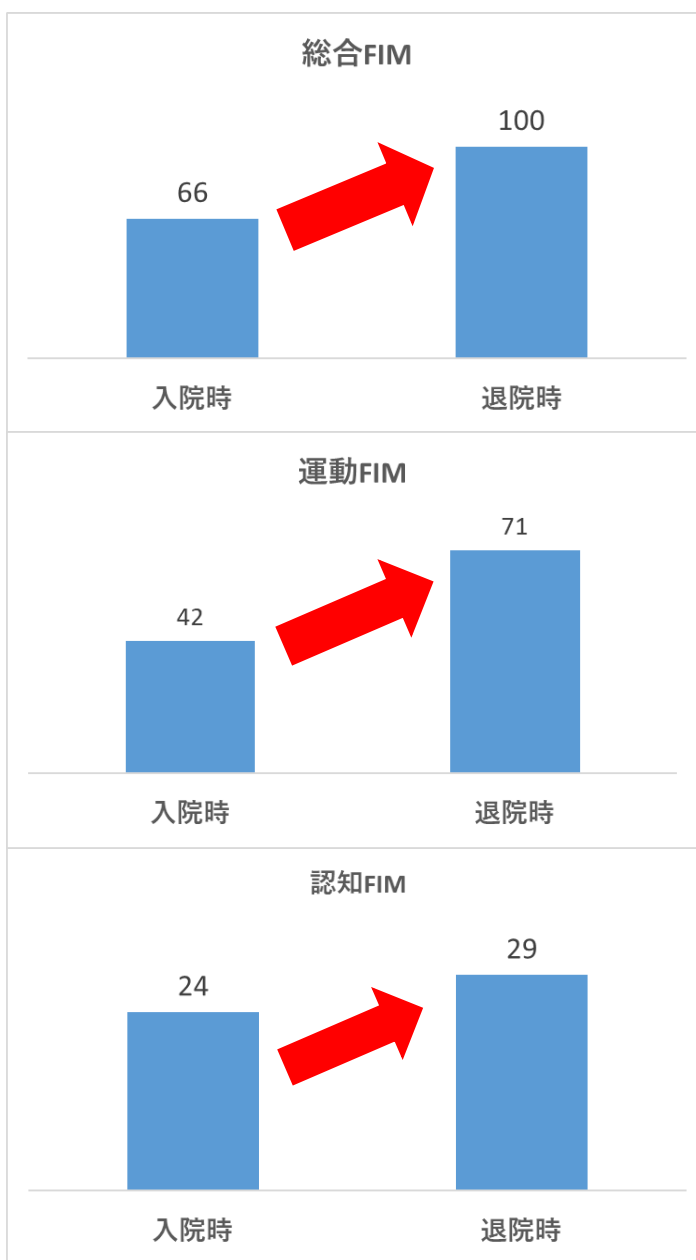


運動器系疾患としては、大腿骨近位部骨折（頸部・転子部・転子下等）がもっとも多く全体の70%を占めています

日常生活動作の改善について

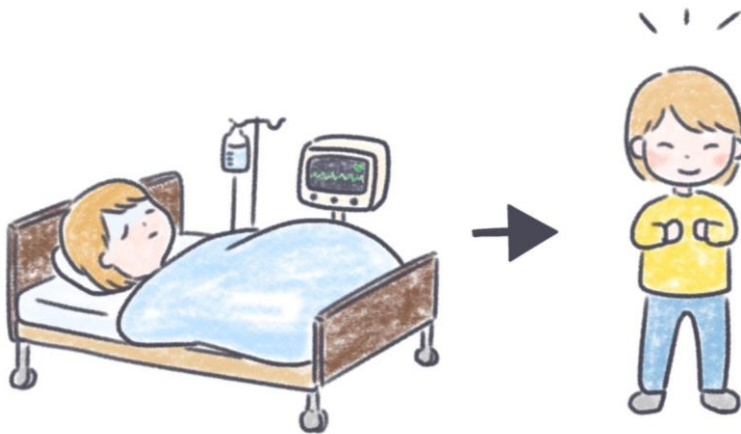
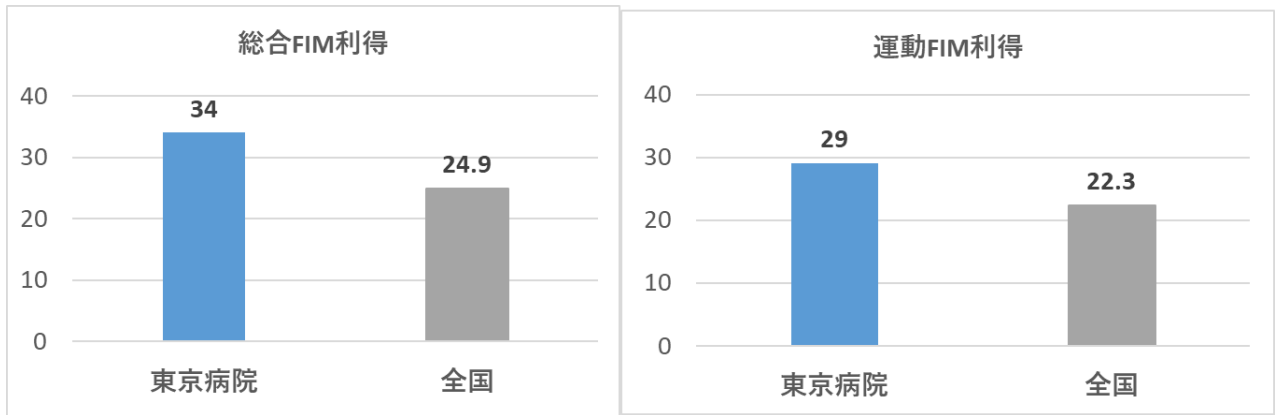
患者さんの日常生活動作がどれくらい回復したかを評価するため、全国の回復期病棟ではFIM(Functional Independence measure)とよばれる評価法を使用しています。FIMは尺度全18項目（運動13項目+認知5項目）の合計で採点し126点が満点です。点数が高いほど日常生活の自立度が高いことを意味し、1点でも高いスコアがとれるように支援することが回復期リハビリテーション医療の目標です。

170名の入院時総合FIMは66、退院時の総合FIMは100でした。



日常生活動作の改善（FIM利得）について

入院時と退院時のFIMの点数の差をFIM利得とよびますが、2023年度の当院のFIM利得は34でした。なお、全国平均のFIM利得は24.9です。全国平均と比較しても、当院では日常生活動作の改善率が高い傾向にあります。

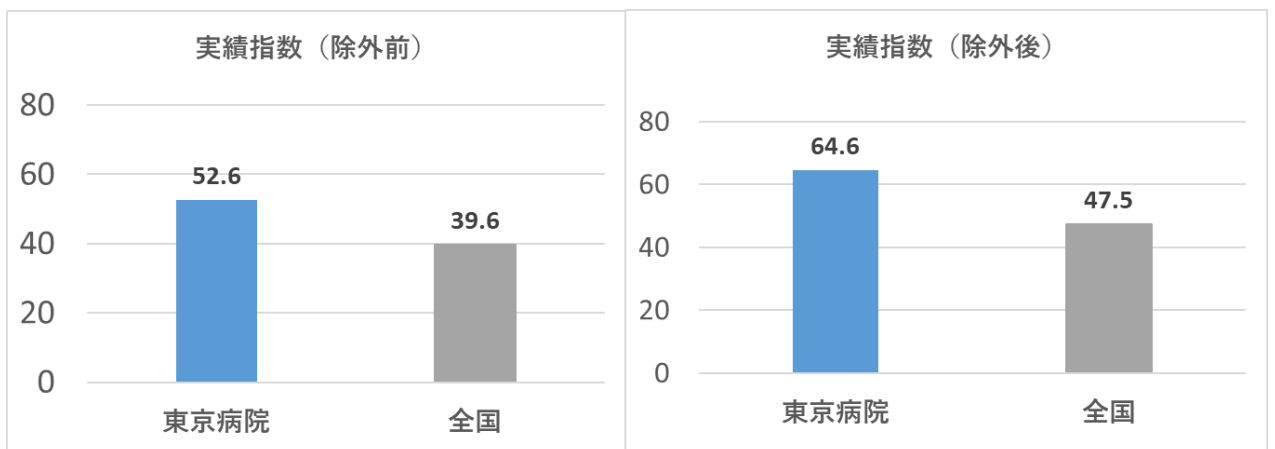


実績指数について

実績指数とは、リハビリの効果を測る指標の1つです。計算式は、分子が運動FIM利得、分母は入院日数をリハビリ算定日数上限で割った値です。

入院期間中にどれだけ効率的に日常生活動作能力を改善できたかを示す指標となります。実績指数の数値が大きいほど、リハビリの効果があったといえます。

ただし、高齢者や認知症患者など、一般に効果が出にくいと考えられる患者の入院が阻害されないよう、実績指数の評価対象から除外する規定も設けられています。下のグラフの「除外前」は全患者を対象に計算した実績指数で、「除外後」が規定により一部患者を計算対象から外した数値となっています。当院は回復期病棟入院料1の施設基準を届出しており、「実績指数40以上」である必要があります。



退院先について

自宅復帰率は83%、自宅に加えて在宅系施設を含めた在宅復帰率は87%でした。病状が悪化して転科・転院での治療が必要となった方を除いて計算すると、自宅復帰率は91%、在宅復帰率は94%となります。

